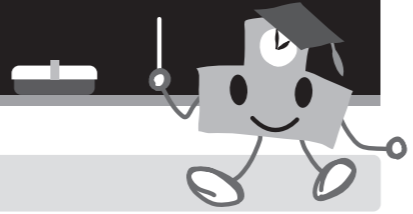


小学校の事例 手稲区 手稲鉄北小学校

高齢者の目線になり、エコカレンダーを作成。表現することで、ごみ分別の理解が進む。

高齢者にもわかりやすい、ごみ収集日の仕組みや分別についてのカレンダーを作成。調べていくことで、分別しようという意識が向上するうえ、福祉に対する関心と理解も高まっている。



内容 ごみ分別を理解し カレンダーを作る

本校では、札幌市教育委員会指導室からの依頼がきっかけで、エコカレンダーづくりに取組んだ。これは5年生が6月～10月に行ったもので、総合的な学習の時間に、3クラス各6グループの合計18グループが、各1つのエコカレンダーを作成した。

この活動で作成したエコカレンダーは、高齢者にもわかりやすいごみ収集日カレンダーである。ごみ収集日の仕組みやごみ分別についての理解を深め、環境に関する関心を高めるとともに、高齢者に対する思いやりの心を育むことが活動のねらいである。

子供たちに目的意識をもたせるため、地域の老人福祉センター長をゲストティーチャーとして招き、カレンダーを作る際の留意点、高齢者にとって見やすい色やサイズ、ゴシック体よりも明朝体がよいといった点について説明してもらった。

この取組により、相手の立場を考えたものの見方を学んで作成したエコカレンダーが完成し、教師や代表の児童によって地域の福祉施設（養護老人ホーム）や区役所のロビーなど約7カ所に届けられた。



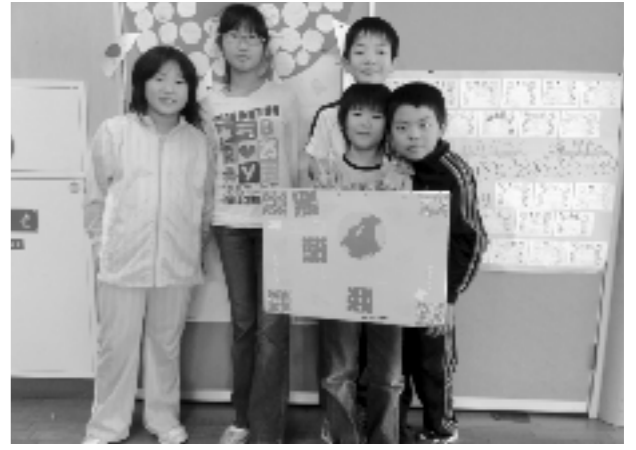
エコカレンダーづくりのメンバー①



施設の方へ手渡す

効果 カレンダーづくりから環境問題へ

カレンダーづくりは、「表現ができ、人の役に立ち、作品として出来上がり、残る」という点で、非常によい活動となった。福祉に対して関心が高まり、その後の学習（駅など地域の施設のユニバーサルデザイン調査）に生かして活動する姿が見られている。また、ごみの分別を理解し、身の回りのごみをしっかり分別しようとする意識が高まっており、環境問題の理解に向けた意識づくりが進んでいる。



エコカレンダーづくりのメンバー②

今後 学習対象への「出会わせ方」に工夫

環境教育は、いかに子供たちに「身近なこと」として関心や必要感をもたせたり、目的意識を高めたりすることができるかが、大きな課題といえる。そのためには、児童と学習対象との出会い方に工夫が必要であり、先生が頭を悩ますところ。今回のようなゲストティーチャーを活用することはその有効な方法のひとつといえる。

カレンダー作成にあたって環境局より消耗品の補助をいただいたが、普段の学習では活動にかかる費用の捻出が難しく、同じことを継続するのは容易ではない。また、1度きりの単独活動では広がりが少なく、福祉等の観点から他の教育活動と併せて実践していくことも必要だ。

本校では今回のエコカレンダー活動を通じて、高齢者や地域と子供たちが交流した経験をもとに、今後さらに地域の環境に目を向けたりできる活動を行っていきたいと考えている。



エコカレンダー

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校からメッセージ

小学校の環境教育においては「体験をとおして物を大切にすること」や「自分を取り巻く環境を守る活動に参加させること」が大切です。地域に密着したものを題材にして、関心をもったことについて調べたり継続して観察できるとよいと思います。また「子供たちの視野の広がり」や「専門的な知識をもとにした環境教育活動」をすすめるために、専門家に講演してもらうことも効果があると思います。

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

小学校の環境教育においては「体験をとおして物を大切にすること」や「自分を取り巻く環境を守る活動に参加させること」が大切です。地域に密着したものを題材にして、関心をもったことについて調べたり継続して観察できるとよいと思います。また「子供たちの視野の広がり」や「専門的な知識をもとにした環境教育活動」をすすめるために、専門家に講演してもらうことも効果があると思います。